

新水(品種解説シリーズ)

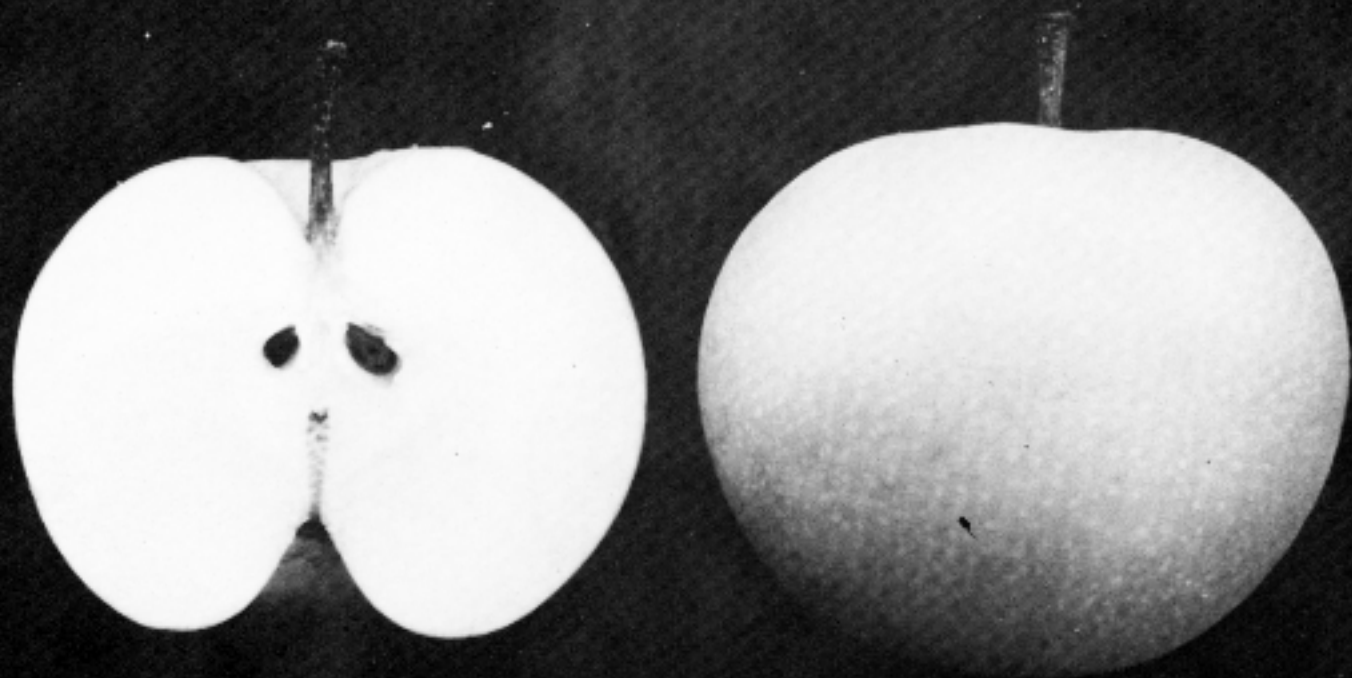
園芸作物の新品種

誌名	園芸作物の新品種
ISSN	
著者名	
発行元	農林水産技術会議事務局
巻/号	
巻号補足	
掲載ページ	p. 82-84
発行年月	1967年3月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター

Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat





ナシ「新水」

新 水 （しんすい）

登録番号 ナシ農林 4 号

旧系統名 らー 24

1. 育成経過

昭和22年(1947)に「菊水」に「君塚早生」を交配して得た交雑実生である。

は種年次 昭和23年(1948)

高接年次 昭和25年(1950)

初結実年次 昭和28年(1953)

第1次選抜年次 昭和31年(1956)

昭和31年(1956)に、当時の農業技術研究所園芸部において、第1次選抜後、府県関係試験場9カ

所に穂木および苗木を送付し、現在まで特性検定試験および地方適応試験を行なってきた。その結果、品質が優秀な点において、早生ナシとして特徴があり、栽培性についても特別な欠点のないことが確認されたので、昭和40年(1965)「新水」と命名し発表した。

2. 特性概要

樹性 樹勢強く、枝の伸長力おう盛である。当年生枝の先端は、濃かっ色を呈し、細毛は少ない。枝の発生はやや少ない方である。短果枝は2年生、3年生部位には着生がきわめて多いが、それより古い部位における短果枝の着生はやや少ない。えき花芽は成木になるにつれて多くなる傾向がある。花芽はやや小さく円形である。

若葉は濃かっ色を呈し、細毛はやや少ない。

一花そう(叢)の花数は平均8花で、花の大きさ中、花卉の形状は円～卵形、開花直後の色は白、花卉数は5枚が多いが、7～8枚の花が混在する。花粉は多量にあり、開花期は「長十郎」とほぼ同時期である。「長十郎」、「雲井」、「二十世紀」、「菊水」とは親和性があるが、「幸水」とは交配不親和である。

果実 果実の大きさは250～300g、樹令の若いうちは、やや小果の傾向がある。果心はとくに小さい。果面は全面に薄いコルクが発達し、熟すと黄かっ色を呈する。果肉は軟らかく多汁で、赤ナシとしては最上級に属するが、「幸水」に比べると多少粗の感じがある。甘味多く、果汁の屈折糖度計示度は第1表に示すように、多くの地方で毎年12～13°を示す。また、酸味も多少感じられ、濃厚な味である。香気はほとんどない。日もちはやや早生ナシとしては良好である。

熟期は「石井早生」とほぼ同時期であるが、年により多少おそくなることもあり、平塚において8月上旬～中旬である。

3. 適地ならびに栽培上の注意事項

新品種は8月上旬～中旬に成熟する早生の赤ナシで、その品質は、従来の早生品種に比較して格段にすぐれている点に特徴がある。したがって、栽培上に多少の短所が認められるが、日本ナシの需要増大と出荷期の調節をはかる品種として「長十郎」の栽培地帯に授粉樹をかねて増殖されるものと考えられる。

樹勢強く、枝の伸長力はおう盛、多少枝の発生密度が少ないので、整枝せん定上若干の注意が必要とされる。花芽の形成は「長十郎」などに比べて少なく、とくに若木時代にはその傾向が強い。しかし、試作地によっては花芽多く、えき花芽も多量に着生するので、成木になるにしたがって、花芽の着生は多くなるものとみられる。

花粉は多量にあり、開花期は「長十郎」とほぼ同じなので、「長十郎」の授粉樹として適当である。しかし、「幸水」とは交配不親和であるから注意を要する。

耐病性については、黒星病にはやや強いが、黒はん病には「長十郎」ほどの絶対的抵抗性を有さない。病原菌胞子の接種試験の結果は、「二十世紀」のような、り(罹)病性とは明らかに異なる。また、過去8年間の10カ所の試験地における成績では、徒長枝の上位葉には、いずれの試験地においても多少の病はん発生を認めているが、果実の病はん発生は少なく、埼玉、静岡両県では無袋栽培でも、ほとんど病害果の発生を認めていない。したがって、多少注意すれば、黒はん病の防除は容易である。

収量に関しては、まだ十分な資料がないが、現在までの各地における成績から、「幸水」程度の収量は期待される。

4. 試験成績

(1) 「新水」果実の糖度計示度と収穫期

試験地	糖 度 計 示 度			収 穫 期		
	昭 38 (1963)	昭 39 (1964)	昭 40 (1965)	昭 38 (1963)	昭 39 (1964)	昭 40 (1965)
福 島 園 試	11.9	11.9	12.6	月 日 8.19—8.26	月 日 8.18—8.22	月 日 8.24—8.31
栃 木 農 試	—	12.3	11.1	8.14—8.19	8.10—8.19	8.15—8.20
埼 玉 農 試	12.0	11.2	11.0	8. 7—8.12	8. 1—8. 8	8. 2—8.10
千 葉 農 試	—	12.5	13.0	—	8.11—8.21	8.17—8.25
東 京 農 試	14.6	12.8	13.5	8.21—8.28	8. 6—8.10	8.17—8.25
静 岡 柑 橘 試	13.0—13.6	12.0—13.0	14.7	8. 4—8.15	8. 4—8.13	8.13—8.20
愛 知 園 試	13.0	13.8	13.3	8. 5—8.12	8. 3—8.10	8.11—8.18
三 重 農 試	12.9	13.0	11.8	8.13—8.23	8. 7—8.17	8.10—8.20
鳥 取 果 試	13.5	13.1	13.0	8 月中旬	8.12—8.16	8.20—9. 3
農 林 省 園 試	12.6	14.4	12.6	8.12—8.26	8.11—8.17	8.14—8.21

5. 育成場所および育成者氏名

園芸試験場

梶浦実，金戸橋夫，町田裕，前田誠